



〔はっそうあん（きゅうしゃないんぼうせん）〕

八窓庵(旧舎那院忘筌)

長浜から、札幌へ

八窓庵(旧舎那院忘筌)の建築年代は不詳であるが、江戸時代初期の大名である小堀遠州の作と伝えられている。

創建時の所在についても明らかな資料がないが、遠州の居城があった滋賀県長浜市内で数回にわたり所在を変えている。そして大正8(1919)年、舎那院(滋賀県長浜市宮前町)の境内にあったところを札幌の実業家が買い受け、八窓庵は札幌の北4条

西12丁目の同実業家の邸内へ移築された。この時に三分庵、水屋を付設し、3室1棟の姿となった。

八窓庵は国宝保存法により昭和11(1936)年に国宝指定を受け、同法が廃止されると同時に文化財保護法により昭和25(1950)年8月29日付けで国指定重要文化財となった。

昭和25(1950)年には、所有者が変わり、以降長らく保存に努めた。その後、昭和46(1971)年に札幌市へ寄贈され、同9月に八窓庵は現所在地の中島公園内の日本庭園へ移築された。

八窓庵がある中島公園内の日本庭園



小堀遠州

本名はこほりまさかず小堀正一(文献によっては政一)。慶長13(1608)年に徳川家康の隠居城である駿府城の作事奉行(幕府管轄建築物の造営や修理を統括する

職)を務め、その功により諸太夫しよたいふ・従五位下じゆごいのかみ遠江守に叙せられ、以来遠江の別称「遠州」と呼ばれるようになった。

遠州は築城のほか作庭や茶室建築も数多く手がけている。遠州が手がけた茶室建築には、龍光院密庵席みつこういんみつあんせき(国宝)、孤篷庵忘筌こほうあんぼうせん(重要文化財)などがある。

茶人としても名高い人物で、茶の湯を千利休ちりきよの高弟ていひふた古田織部ふるいでに学び、徳川家の茶道指南役を務めた。

また、「綺麗さびきれいさび」(華やかな中にもさびのある風情)といわれる幽玄・有心の茶道を創り上げた。

八つの窓

八窓庵の内部は2畳台目じようだいめ(2枚の本量に本量1枚の4分の3の大きさを加えたもの)で、その名のとおりの8つの窓(連子窓れんじまど※13つ、下地窓したじまど※24つ、突上窓つきあがまど※31つ)がある。この8つの窓が狭い空間を広々と立体的なものにしており、また台目の空間に4つの窓が集中するように配置されている。これにより、点前座の舞台的な効果を生み出している。



八窓庵内部

忘筌

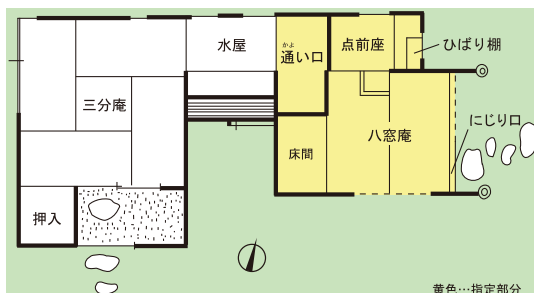
八窓庵正面ひだしには庇へんがあり、その上部に席名「忘筌」の扁額へんがくがある。「忘筌」は『莊子』の「筌は魚に在る所以なり。魚を得て筌を忘る」という言葉に由来している。筌は魚を獲る道具のことで、「目的を果たしたあとはそれに使った道具や手段は忘れてよい」と言う意味。茶道を学ぶには様々な道具が必要だが、あくまでも茶道を学ぶための手段であって、それに執着して本来の目的を忘れてはならないという戒めを伝えている。

註(用語解説)

- ※1 連子窓: 敷居ふきいと鴨居かもいを取り付け、細い角材を縦または横に一定間隔で打ちつけた窓。
- ※2 下地窓: 壁を塗り残したまま下地が見えている窓。
- ※3 突上窓: 屋根に切りあけた天窓。

概要

- 木造平屋
- 切妻屋根(こけら板葺の上に銅板葺)
- 塗壁腰杉皮張
- 内部 二畳台目
- 建築面積 八窓庵……………9.38 m²
三分庵……………9.92 m²
水屋……………2.62 m²



黄色…指定部分

- 建築年代: 不詳(江戸時代初期)
- 指定年月日: 昭和25(1950)年8月29日
- 所在地: 札幌市中央区中島公園1番 日本庭園内
- お問い合わせ: 現地警備員詰所 ☎ 531-0029
- 観覧形態: 外部観覧のみ
- 観覧時間: 9時00分～17時00分
- 休館日: 冬期間(11月上旬～4月下旬)
※中島公園日本庭園の閉園時期に同じ
- 観覧料: 無料
- アクセス
地下鉄南北線「中島公園」3番出口より約400m
市電「中島公園通」 JRバス「中島公園駅前」